

## ゆめごよみ風だより 106号

### INDEX (見出し)

- ・ 追悼 山田 太一さん
- ・ 能登半島地震 現地調査報告
- ・ 被災地から
- ・ リレーエッセイ 災害と障害者 第79回
- ・ ゆめ風30周年企画
- ・ 応援団からこんにちは! vol. 8
- ・ キャンパをいただいた団体/事務局の動き
- ・ 会計報告
- ・ 各地からの風だより

追悼 山田 太一さん

### 「男たちの旅路・車輪の一步」の思い出

堤 愛子



脳性マヒ、車いす使用のピア・カウンセラー。高校生の頃からフリーライ  
ターとして、「脳性マヒ児の教育」「われら人間」「月間障害者問題」など  
に記事を書く。現在自立生活センター「町田ヒューマンネットワーク」  
理事長

2023年11月29日、脚本家の山田太一さんがお亡くなりになった。89歳だった。このとき

私は、たまたま山田さんと対談をした44年前の「福祉の時代」のビデオを見返しており、

その最中に山田さんの訃報を知り、不思議なご縁に衝撃を受けた。

●コラム「迷惑って何？」

わたし やまだたいち はじ あ ねん がつ がつ とうじかか  
私が山田太一さんに初めてお会いしたのは、1978年の6月か7月、当時関わっていたミ  
ニコミ紙「月刊障害者問題（以下「障問」と略。1976年5月創刊）の「2周年の集い」だ  
ったように思う。「障問」は、ポリオ（脊髄性小児マヒ）の車いす障害者、本間康二さん  
が編集長の、タブロイド判の新聞だ。

ほんま はそれ以前から山田さんと親交があったようで、山田さんのインタビュー記事  
などもたびたび掲載していた。その縁で山田さんも「障問」をていねいに読んでくださっ  
ていた。「2周年の集い」の頃、すでに「男たちの旅路・車輪の一步」（1979年11月放送）の  
構想が進んでいて、本間さんの車いす故のさまざまな体験談と共に、私の記事も一部参考  
にさせてもらっている、とのことだった。

とうじ わたし じりきほこう げんざい くるま のうせい ゆうじん くるま  
当時の私は、まだ自力歩行ができ（現在は車いす）、脳性まひの友人たちの車いすを  
お まち で きかい おお てつだ ねが みし  
押し町に出る機会が多く、そのたびに「すみません、お手伝いお願いします」と見知ら  
ぬ通行人に「声かけ」をしていた。「迷惑をかけることを恐れるな」、そう自分自身にも  
い き かい せながら、電車を利用していた仲間たちのことを、私は「障問」21号（78年1月）  
のコラムに書いている。題して「『迷惑』って何？」。その一部を紹介したい。

ぜんりやく よ ひとひと かんが がた なん つみ いしき かん は ひと めいわく か  
（前略）世の人々よ、考えてほしい。あなた方が何の罪の意識も感じずに吐く「人に迷惑を掛  
けない人間になれ」という言葉が、常識が、どれほど多くの障害者を狭い空間と劣等感に閉じ込  
め、果ては自殺や親子心中にまで追い込んできたことか。（中略）「障害者はもっと人々に”迷惑”  
をかけるべきだ」と居直っている障害者でも、人にもものを頼むのに何らかの心の負担を感じてい  
るのだ。（中略）そのシンドサをあえて引き受け、「わがままもの、自己主張の強い奴」という  
おめい き かぎ いま しゃかい しょうがいしゃ せいかつけん ひろ じりつ え  
汚名を着ていこうとしない限り、今の社会での障害者の生活圏の広がり自立はあり得ないのだ。

こうりやく  
（後略）

とうじ さい わたし いまおも やまだたいち きやくほん い  
当時23歳の私の、今思えばなかなか勇ましいコラムだが、山田太一さんの脚本に活か  
されている。故・鶴田浩二演じるガードマンが、「君たちは、社会に迷惑をかけないように  
と思うことで、自分を小さくしているように見える。だが、必要な迷惑、ぎりぎりの迷惑  
はかけてもいいんじゃないだろうか」と車いすの青年を諭す場面である。

## ● 障害のない人たちも共感

だが、当時の私はこの台詞を鶴田浩二に言わせたことが不満だった。

翌80年2月、NHK教育テレビの「福祉の時代」で、「車輪の一步」を巡って山田さん、本間さんと3人で鼎談する機会があった。その中で私は「『迷惑をかけてもいいじゃないか』という言葉は、障害者自身がぎりぎりの思いの中で生み出した考え方。健全者が障害者を諭す形で出てくるのはおかしい」と主張した。

「言いたいことはよくわかる。でも、テレビドラマで障害者にこのセリフを言わせると、お茶の間の視聴者の反発を買うだけ。鶴田浩二が言うからこそ、説得力があるんだよね」と、山田さんは淡々とおっしゃった。私は、それ自体が障害者差別だと感じた。

「障害者はその言葉を使っても、反発されない社会になってほしい」という私の言葉に、山田さんはうなずいておられたが、あれから44年経ったいまでも、「障害者が言ったから社会は反発する」という状況は、あまり変わっていない気がしてならない。

ただ、いま振り返ると、「障問」を通じて山田さんは私たちの思いをしっかりと受け止め、脚本家の立場からその思いをお茶の間に届けてくれたんだと思える。その結果、多くの障害者が勇気づけられ、外に出るきっかけになった。本当に感謝している。

2023年12月18日に「クローズアップ現代 追悼山田太一さん」という番組が放送された（私も一瞬出演している）が、オンライン上にある「視聴者の声」には、障害者ばかりでなく障害のない人も「迷惑をかけてもいい」という言葉に影響を受け、救われたと書いている。私はこの言葉を「障害者の視点」からしか捉えていなかったが、山田さんはもっと広い視点でこの言葉を投げかけたかったのでは、と改めて思った。

山田太一さん、ありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。

の と はんとうじしん げんちちようさほうこく  
能登半島地震 現地調査報告

かぜききんじむきょく うえの かよ  
ゆめ風基金事務局 植野 加代

げんざい かぜききん かぜ か が きょうしつ かなざわし まどぐち ひさいち  
現在ゆめ風基金では「ゆめ風ネット加賀 ひまわり教室」(金沢市)が窓口となり、被災地への

ぶっしはいそう おこな さまざま だんたい れんけい しゅう1かい かいぎ ひら じょうほう きょう  
物資配送などを行っています。また、様々な団体と連携し、週1回ZOOM会議を開き情報の共

ゆう  
有をしています。

田鶴浜地区の様子→

ひ たつ つれ ひさいち おこな さまざま もんだい う ぼ  
日が経つにつれ被災地における様々な問題が浮き彫り

になり、状況<sup>じょうきょう</sup>を把握<sup>はあく</sup>すべく、施設<sup>しせつ</sup>への物資配送<sup>ぶっしはいそう</sup>

を軸<sup>じく</sup>とした現地調査<sup>げんちちようさ</sup>を1月末<sup>がつまつ</sup>に行い<sup>おこな</sup>ました。



しかまち まな しゃ たてもん ひがい おお だんすい にゆうよく たし どうほう  
志賀町の「学び舎あい」は、建物への被害も大きく、断水のため入浴は他市にある同法

じん じぎょうしょ かよ ちく じめん わ どうかい かおく おお ゆ  
人の事業所に通われていました。この地区は地面がひび割れ倒壊している家屋も多く、揺れ

の大きさを痛感<sup>おお つうかん</sup>しました。また、志賀町には志賀原<sup>しかまち しかげんぼつ</sup>発もあり、現在停止<sup>げんざいていし</sup>しているものの原発<sup>げんぼつ</sup>

にも被害<sup>ひがい</sup>が及<sup>およ</sup>んでいたら…と、東日本大震災<sup>ひがしにほんだいしんさい</sup>の福島<sup>ふくしま</sup>の被害<sup>ひがい</sup>が脳裏<sup>のうり</sup>をよぎりました。

わじまし こうぼう やく めい す きぼう ぶっし  
輪島市の「ふれあい工房あぎし」では約40名が過<sup>す</sup>ごされて<sup>きぼう</sup>いました。希望<sup>きぼう</sup>された物資<sup>ぶっし</sup>の

なか ねこ だんすい かこく ふじゆう せいかつ なか ねこ いや せんざい  
中には「猫のごはん」もあり、断水<sup>だんすい</sup>し過酷<sup>かこく</sup>で不自由<sup>ふじゆう</sup>な生活<sup>せいかつ</sup>の中で猫<sup>ねこ</sup>という癒<sup>いや</sup>しの存在<sup>せんざい</sup>があ

ることがわかり、少し<sup>すこ</sup>ほっとしました。

あなみずまち にちようひん ほか む え  
穴水町の「グループホームふきのとう」へは日用品<sup>にちようひん</sup>の他に、おりがみ<sup>ほか</sup>、塗り絵<sup>むえ</sup>、パズル

などもお届<sup>とど</sup>けすることができました。

ぶっしはいそう きぼうぶっし きり じ おお けいじょう  
物資配送<sup>ぶっしはいそう</sup>をするにあたり、希望<sup>きぼう</sup>物資<sup>ぶっし</sup>の聞き取り<sup>きり</sup>時のメモ<sup>じ</sup>には、バケツ<sup>おお</sup>の大きさ<sup>けいじょう</sup>や形状<sup>けいじょう</sup>、

お がみ すう しょうさい しる しせつ しょくいん  
折り紙<sup>おがみ</sup>のサイズやパズル<sup>すう</sup>のピース数<sup>しょうさい</sup>などが詳細<sup>しる</sup>に記<sup>しせつ</sup>されて<sup>しょくいん</sup>いました。どの施設<sup>しせつ</sup>も職員<sup>しょくいん</sup>の

おお ひさいしゃ ひへい こころ よゆう よう なか きょうしつ とど さき しせつ  
多くが被災者<sup>おお ひさいしゃ</sup>で、疲弊<sup>ひへい</sup>し心<sup>こころ</sup>に余裕<sup>よゆう</sup>もない。その様<sup>よう</sup>な中<sup>なか</sup>でひまわり教室<sup>きょうしつ</sup>が、届<sup>とど</sup>け先<sup>さき</sup>の施設<sup>しせつ</sup>

にはどんな方<sup>かた</sup>がどのように過<sup>す</sup>ごされているのか<sup>かん</sup>などを感<sup>と</sup>じ取り<sup>ていねい</sup>、丁寧<sup>き</sup>に聞き取り<sup>と</sup>をされて

いる様子<sup>ようす</sup>がその手書き<sup>てが</sup>のメモ<sup>つた</sup>から伝<sup>つた</sup>わって<sup>つた</sup>きました。

こんかい さいがい おくの と ひがい おお こういきひなん かた たくさん しょうがい  
今回の災害<sup>こんかい</sup>は奥能登<sup>さいがい</sup>での被害<sup>おくの</sup>が大きい<sup>と</sup>ため、広域<sup>ひがい</sup>避難<sup>おお</sup>をされる方<sup>こういきひなん</sup>が沢山<sup>かた</sup>います。障害<sup>たくさん</sup> 障<sup>しょう</sup>害<sup>がい</sup>

ふくし かんれん じぎょうしょ ほうもん う い かのうしせつ じょうほう そうだん  
福祉<sup>ふくし</sup>サービス<sup>かんれん</sup>に関連<sup>じぎょうしょ</sup>する事業所<sup>ほうもん</sup>も訪問<sup>う</sup>しましたが、受け入れ可能<sup>いのうしせつ</sup>施設<sup>じょうほう</sup>の情報<sup>そうだん</sup>など、相談<sup>そうだん</sup>に

こた へつよう じょうほう すく そうだん おう むずか こえ  
応えるため必要な情報が少なく、相談に応じることが難しいとの声もありました。

じょうきょう こくこく か しえん ぶつてき じんてき へんか  
状況は刻々と変わり、支援のニーズも物的なものから人的なものへと変化しています。

いしかわけん とやまけん にいがたけん ひがいで かぜきん さまざま だんたい  
また石川県のみならず、富山県、新潟県でも被害が出ています。ゆめ風基金は、様々な団体

れんけい いき なが しえんかつどう おこな  
と連携しつつ息の長い支援活動を行っています。

ひさいち の とじしん  
被災地から能登地震によせて

## の とじしん 能登地震と3.11

とくていひ えいりかつどうほうじん じりつせいかつ りじちよう はせがわ ひでお  
特定非営利活動法人いわき自立生活センター 理事長 長谷川 秀雄

がんじつ の とほんとう はっせい さいだいしんど7 おおじしん きょうかく  
元日に能登半島で発生した最大震度7の大地震に驚愕した。

しょうがつやすみ いっか きせい たのしいだんらん ととき おく かぞく かおくとくかい な  
正月休みに一家で帰省し、楽しい団欒のひと時を送っていた家族が、家屋倒壊で亡くなり、

ただひとり残された男性が「なぜ私がこんな目に遭わないといけないのか・・・」と話す

すがた み なみだ と  
姿を見ると、涙が止まらない。

げんち けんめい きゅうじょかつどう つづ わたし さが と く  
現地では懸命の救助活動が続いており、私たちもできることを探して取り組んでいき

い。3.11を経験した者として感じるのは、能登地震の特徴として、家屋倒壊が多いこ

とである。3.11の被害は、なんといってもおおつなみによるものが圧倒的であった。私たち

ほうじん かいがんぞ す りようしゃ めいつなみ な  
の法人でも、海岸沿いに住んでいた利用者が1名津波で亡くなっている。

そして、どしゃくず どうろ すんだん しえん とど おお じかん  
そして、土砂崩れで道路が寸断されてしまい、支援が届くまでに多くの時間がかかって

いること。またとうき えいせいじょうたい あっか かんせんしょう  
また冬季でもあり、衛生状態の悪化によりコロナやインフルエンザの感染症

かくだい おお てる かこく いちいん かん  
の拡大が起きている点も過酷さの一因となっているように感じる。

の と だいじしん おおつなみけいほう はつれい き わたし おも し かげんぼつ  
「能登で大地震」「大津波警報が発令」と聞いて、私がまさきに思ったのは「志賀原発

があぶ ということであった。ふくしまだいいちげんぼつ じ こ れんそう じっさい  
が危ない！」ということであった。福島第一原発の事故を連想してしまったのだ。実際3

メートルのつなみ おそ がいぶでんげん つか じたい いちぶはっせい  
メートルの津波が襲い、外部電源が使えない事態も一部発生したとのこと。

じしん きんりん げんぼつ じょうきょう ほうどう ほうしゃのうも かんそく  
地震のたびに、近隣の原発の状況が報道され「放射能漏れは観測されておりません」

とのテロップが流れるのが当たり前になっているが、これっておかしくはないか？ 近隣の

かりよくはつでんしよ  
火力発電所のことはどうして触れないのか？

だれ かいとう げんぱつ ないぶ たいりょう ほうしやせいぶつ こと かんきょう  
誰でもわかる回答は「原発は内部に大量の放射性物質をため込んでいる」「それが環境  
ほうしゅつ きけん  
に放出されると危険」である。

ふくしまけん おおつなみ えんがん かりよくはつでんしよ おそ きき だいだげき あた やくはんとしかん  
福島県では、大津波は沿岸の火力発電所も襲い、機器に大打撃を与え、どこも約半年間  
はつでんていし お こ じゅうみん ひなんしじ だ  
の発電停止に追い込まれたが、それで住民に避難指示が出されることはなかった。

く かえ おおじしん お にほんれつとう うえ きけん げんぱつ つなみ しんぱい  
繰り返し大地震が起きる日本列島の上に、このような危険な原発を、しかも津波の心配  
えんがんぶ た おとな  
がある沿岸部に建てるのは、大人のやることではない。

こんかい ふくしま たいりょう ほうしやせいぶつ ほうしゅつ どうろ すんだん  
今回もし福島のような大量の放射性物質の放出になっていたなら、道路が寸断され  
こりつか の とほんとう せんたんぶぶん じゅうみん うんめい かんが  
孤立化した能登半島の先端部分の住民は、どのような運命になったか。考えたくもない  
かんが  
が、考えないといけないことだ。

## だいじしん けいけん 「大地震を経験して」

フリースペースソレイユ（仙台市） すがい あかり  
菅井 明里

とし あ め と こ の とほんとうじしん ひがいじょうきょう うつ だ  
年が明け、目に飛び込んできたのは能登半島地震の被害状況が映し出されたニュース  
でした。

ひさん じょうきょう いえ お がれき やま した  
それはとても悲惨な状況で、家が押しつぶされ瓦礫の山となった、その下にはたくさ  
ひと ぎせい きも  
んの人たちが犠牲になっていて、いたたまれない気持ちになりました。

こんかい の とほんとうじしん ねんまえ がつ にち はつせい ひがしにほんだいしんさい じしん つなみ  
今回の能登半島地震は、13年前の3月11日に発生した「東日本大震災による地震・津波」と  
かさ  
重なるものがありました。

ご ご じ ふんげきしん じぎょうしよ かたむ た ほど おお ゆ あと きゅう ゆき  
午後2時46分激震により事業所は傾き、立ってられない程の大きな揺れの後、急に雪  
ふ はじ つなみ き けいたいでんわ し いえ かえ よめい  
が降り始めました。「津波が来ている」と携帯電話でニュースを知り、家に帰れない20余名  
りようしや ちか していひなんしよ しょうがっこう ひなん よる つよ よしん  
の利用者さんと近くの指定避難所（小学校）に避難をしました。その夜は強い余震がくる  
こわ こわ おおごえ な さけ りようしや だいじょうぶ だいじょうぶ こえ  
たび「怖い・怖いよ」。と大声で泣き叫ぶ利用者さんたちに「大丈夫・大丈夫」と声をかけ、  
さむ ふる あさ むか  
寒さに震えながら朝を迎えました。

避難者でぎゅうぎゅう詰めの教室で一般の人たちと一夜をともにしましたが、周りから何となく白い目で見られているようで、早朝、事業所に戻りました。そして津波で家を失った利用者の親子さんも含め15名、事業所で3週間くらいの避難所生活をしたことは、今でも鮮明に覚えています。

その時、食堂として使用していた建物は大規模半壊、安心して使えなくなった建物を取り壊し、新たに建て替えることにした際、多大なる資金援助をしていただきましたのはゆめ風基金です。本当に感謝申し上げます。

また、2022年3月16日夜に発生した福島県沖地震でも、グループホームの玄関ドアが壊れてしまいました。さあ、修理するにあたってどこからお金を工面しようか困っているときに、ゆめ風さんから「何か困っていることはありませんか」という優しいお言葉をいただきました。

おかげ様で玄関ドアが新しくなり、利用者さんも快適に過ごしています。

ご厚意に感謝！感謝！です。

ゆめ風基金さん、本当にありがとうございました。

## ■リレーエッセイ 災害と障害者 第七十八回



かとう ようこ  
加藤 陽子

1977年生まれ。自立生活センター松山理事。46年間、障害と付き合っている。

養護学校卒業後は福祉作業所に通いながら親元で生活。20歳の時、自立

生活センター松山と出会い色々な壁にぶつかりながら、24歳で自立。楽しく生きてます。

### わたし さいがい かん 私が災害で感じていること

私が災害を意識するようになったのは、今から13年前の東日本大震災からです。その日

私は作業所に行っていて、松山は少し揺れるくらいでした。家に帰ってニュースをみたら、

にほん おも こうけい がありました。ちょうど ふくしま とも い とき でした。その日 から なんにち テレビは さいがい の ニュースしか なが 流れていませんでした。4月に ふくしま い に行っていた とも まつやま かえ さいがい じょうきょう げんざい じょうきょう はなし き わたし 友だちが 松山に 帰ってきて、災害の ときの 状 況 や 現在の 状 況 の 話 を 聞いて、私たち が 今すぐ できる ことは 何かを 考え、有志が 集まって 「被災地応援隊はなみずき」を 立ち上げて、5月から 募金活動 を することになりました。みんなで 募金箱 や 看板 や チラシを てづく つき いちど 募金活動 を 約3年 くらい 行いました。その間にも、被災地 ふくしま の 障 がい者 事業所の方が 作った 缶バッチ や キーホルダー などの 販売に 協力し、復興の 支援 にも 協力 しました。

2012年9月には 「被災地障がい者支援センターふくしま」の 代表の 白石清春さんたちに き 来てもらい、「わたしたちに できること、そしてこれから～3.11被災障がい者からのメッセ ージ」をテーマに 講演会 を 行いました。

2016年には 熊本地震が 起こり、被災地障 害者センターくまもとに スタッフを 派遣 しまし た。また、同じ年に ゆめ風基金の 事務局 長 八幡隆司さんに来てもらって 「大規模災害時 の要支援者を考える 研修会」を行いました。この年に 「ゆめ風ネットまつやま」として ゆめ風ネットワークに 加盟して、もっと いろんな 団体の方との 出会いも ありました。

2018年7月は 西日本豪雨災害が あり災害が 続きました。豪雨災害を きっかけに 「愛媛水害 情報共有メーリングリスト」を作り、災害などの 情報を 共有して、それが 支援活動に つながりました。現在は 「7.7を 忘れない。いのちつながる 防災メーリングリスト」に 名前 が 変わり、募金活動のお知らせメールにも 活用 しています。

いつどこで 災害が 起きるかわからないと つくづく 思います。現在も 時々ですが、募金活動 を 続けることで 自分自身が 災害を 忘れないようにし、社会にも 私たちの ように いろんな人 がいて、いろんな 障 害があることを 知ってもらえる きっかけになれば 良いと 思い 続けてい ます。

2023年3月には ゆめ風基金の 総会を 松山で行うことができました。これも 2011年の 東日本 大震災から 募金活動が 始まり、さまざまな人 と つながりが できたので 松山で ゆめ風の 総会



ができた<sup>おも</sup>と思います。本当に嬉しく<sup>ほんとう うれ</sup>おもっています。

私<sup>わたし</sup>が今<sup>いま</sup>おもっていることは災害<sup>さいがい</sup>の時<sup>とき</sup>は、特に<sup>とく</sup>重度<sup>じゅうど</sup>の障害<sup>しょうがい</sup>がある人<sup>ひと</sup>は一人<sup>ひとり</sup>に  
できません。なので日頃<sup>ひごろ</sup>から防災意識<sup>ぼうさいいしき</sup>をもつことが大切<sup>たいせつ</sup>だと思<sup>おも</sup>いますが、なかなかできて  
いないです。だけど、普段<sup>ふだん</sup>から近所<sup>きんじよ</sup>の人<sup>ひと</sup>との何気<sup>なにげ</sup>ないあいさつやコミュニケーション<sup>と</sup>を取る  
のも防災<sup>ぼうさい</sup>につながるひとつだ<sup>おも</sup>と思います。

私<sup>わたし</sup>は1年前<sup>ねんまえ</sup>に生まれ育<sup>う</sup>った地域<sup>そだ</sup>に引越<sup>ちいき</sup>しをしました。近所<sup>きんじよ</sup>の人<sup>ひと</sup>は、みんな私<sup>わたし</sup>が子ども  
の時<sup>とき</sup>から知<sup>し</sup>ってくれています。

いつも顔<sup>かお</sup>を合<sup>あ</sup>わしたら、声<sup>こえ</sup>をかけてくれたり、私<sup>わたし</sup>も仕事<sup>しごと</sup>に行く<sup>い</sup>ときにおばちゃん<sup>かお</sup>の顔<sup>かお</sup>  
見えたら「行<sup>い</sup>ってきます」と言<sup>い</sup>ったりしています。おばちゃんも「気<sup>き</sup>をつけてね」と言<sup>い</sup>って  
くれます。そして、おかず<sup>よるおそ</sup>をくれたり、夜遅<sup>い</sup>くなくても家<sup>いえ</sup>の電気<sup>でんき</sup>がつか<sup>き</sup>なかつたら気<sup>き</sup>にか  
けてくれたりする事<sup>こと</sup>も大事<sup>だいじ</sup>だと思<sup>おも</sup>っています。

また先日<sup>せんじつ</sup>は災害<sup>さいがい</sup>時に障害<sup>しょうがい</sup>者をどう救<sup>きゆうじよ</sup>助<sup>じよ</sup>するの<sup>くんれん</sup>かの訓練<sup>しょうぼうしよ</sup>を消<sup>かた</sup>防<sup>きかく</sup>署<sup>し</sup>の方が企画<sup>きかく</sup>してくれて、  
わたしたち障害<sup>しょうがい</sup>者<sup>しゃだんたい</sup>団体<sup>いけんこうかん</sup>と意見<sup>きかい</sup>交換<sup>つく</sup>をする機会<sup>きかい</sup>を作<sup>つく</sup>ってくれました。

障害<sup>しょうがい</sup>によってサポ<sup>ちが</sup>ートを<sup>しょうぼう</sup>してもらいたい<sup>かた</sup>ことが違<sup>し</sup>うことを、消<sup>しょうぼう</sup>防<sup>かた</sup>の方<sup>し</sup>に知<sup>し</sup>ってもらえ  
るき<sup>き</sup>っかけになりました。特に<sup>とく</sup>見た目<sup>み</sup>ではわ<sup>め</sup>かりにくい<sup>しょうがいしゃ</sup>障害<sup>かた</sup>者<sup>さいがい</sup>の方<sup>とき</sup>は、災<sup>しえん</sup>害<sup>ん</sup>の時<sup>し</sup>は支<sup>し</sup>援<sup>えん</sup>が  
あ<sup>あ</sup>とまわ<sup>あ</sup>しにな<sup>おも</sup>ってしま<sup>だれ</sup>うと思<sup>しょうがいしゃ</sup>いました。誰<sup>かのうせい</sup>だ<sup>さいがい</sup>って障<sup>し</sup>害<sup>えん</sup>者<sup>ん</sup>にな<sup>あ</sup>る可<sup>あ</sup>能<sup>あ</sup>性<sup>あ</sup>がある<sup>あ</sup>ので、災<sup>あ</sup>害<sup>あ</sup>の時<sup>あ</sup>は支<sup>あ</sup>援<sup>あ</sup>が  
時<sup>とき</sup>には互<sup>た</sup>いに助<sup>た</sup>け合<sup>た</sup>えるの<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>一<sup>あ</sup>番<sup>あ</sup>だ<sup>あ</sup>と感<sup>あ</sup>じていま<sup>あ</sup>す。だ<sup>あ</sup>け<sup>あ</sup>ど、今<sup>あ</sup>の社<sup>あ</sup>会<sup>あ</sup>は個<sup>あ</sup>人<sup>あ</sup>、個<sup>あ</sup>人<sup>あ</sup>で近<sup>あ</sup>所<sup>あ</sup>  
の<sup>あ</sup>人<sup>あ</sup>の顔<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>知<sup>あ</sup>ら<sup>あ</sup>ない<sup>あ</sup>し、あ<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>さ<sup>あ</sup>つ<sup>あ</sup>もあ<sup>あ</sup>ん<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>り<sup>あ</sup>し<sup>あ</sup>て<sup>あ</sup>ない<sup>あ</sup>人<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>方<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>多<sup>あ</sup>い<sup>あ</sup>と思<sup>あ</sup>いま<sup>あ</sup>す。

でも<sup>あ</sup>平<sup>あ</sup>常<sup>あ</sup>から関<sup>あ</sup>わり<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>あ<sup>あ</sup>れば、た<sup>あ</sup>と<sup>あ</sup>え<sup>あ</sup>そ<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>人<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>助<sup>あ</sup>ける<sup>あ</sup>事<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>無<sup>あ</sup>理<sup>あ</sup>でも、誰<sup>あ</sup>か<sup>あ</sup>に<sup>あ</sup>伝<sup>あ</sup>えて<sup>あ</sup>支<sup>あ</sup>援<sup>あ</sup>を  
呼<sup>あ</sup>ぶ<sup>あ</sup>事<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>でき<sup>あ</sup>る<sup>あ</sup>か<sup>あ</sup>も<sup>あ</sup>し<sup>あ</sup>れ<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>せん。

この原稿<sup>げんこう</sup>を書<sup>か</sup>き始<sup>はじ</sup>めた<sup>とき</sup>時<sup>れいわ</sup>に令<sup>ねん</sup>和<sup>の</sup>6年<sup>とはんとうじしん</sup>能<sup>はつせい</sup>登<sup>しぜん</sup>半<sup>ちから</sup>島<sup>ちから</sup>地<sup>ちから</sup>震<sup>ちから</sup>が<sup>ちから</sup>発<sup>ちから</sup>生<sup>ちから</sup>して<sup>ちから</sup>しま<sup>ちから</sup>いま<sup>ちから</sup>した。自<sup>ちから</sup>然<sup>ちから</sup>の<sup>ちから</sup>力<sup>ちから</sup>に  
は<sup>あ</sup>と<sup>あ</sup>て<sup>あ</sup>も<sup>あ</sup>か<sup>あ</sup>な<sup>あ</sup>わ<sup>あ</sup>ない<sup>あ</sup>と感<sup>あ</sup>じ<sup>あ</sup>ま<sup>あ</sup>した。

自<sup>あ</sup>分<sup>あ</sup>が<sup>あ</sup>でき<sup>あ</sup>る<sup>あ</sup>こ<sup>あ</sup>と<sup>あ</sup>から防<sup>あ</sup>災<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>こ<sup>あ</sup>と<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>考<sup>あ</sup>え<sup>あ</sup>て、介<sup>あ</sup>助<sup>あ</sup>者<sup>あ</sup>と<sup>あ</sup>も真<sup>あ</sup>剣<sup>あ</sup>に<sup>あ</sup>話<sup>あ</sup>して<sup>あ</sup>お<sup>あ</sup>か<sup>あ</sup>ない<sup>あ</sup>とい<sup>あ</sup>け<sup>あ</sup>な  
い<sup>あ</sup>と思<sup>あ</sup>いま<sup>あ</sup>す。私<sup>あ</sup>た<sup>あ</sup>ち<sup>あ</sup>障<sup>あ</sup>害<sup>あ</sup>者<sup>あ</sup>は助<sup>あ</sup>けて<sup>あ</sup>く<sup>あ</sup>れ<sup>あ</sup>る<sup>あ</sup>人<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>一<sup>あ</sup>人<sup>あ</sup>でも<sup>あ</sup>多<sup>あ</sup>く<sup>あ</sup>つ<sup>あ</sup>く<sup>あ</sup>る<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>も大<sup>あ</sup>事<sup>あ</sup>か<sup>あ</sup>な<sup>あ</sup>と思<sup>あ</sup>いま<sup>あ</sup>す。私<sup>あ</sup>た<sup>あ</sup>ち<sup>あ</sup>障<sup>あ</sup>害<sup>あ</sup>者<sup>あ</sup>は助<sup>あ</sup>けて<sup>あ</sup>く<sup>あ</sup>れ<sup>あ</sup>る<sup>あ</sup>人<sup>あ</sup>を<sup>あ</sup>一<sup>あ</sup>人<sup>あ</sup>でも<sup>あ</sup>多<sup>あ</sup>く<sup>あ</sup>つ<sup>あ</sup>く<sup>あ</sup>る<sup>あ</sup>の<sup>あ</sup>も大<sup>あ</sup>事<sup>あ</sup>か<sup>あ</sup>な<sup>あ</sup>と思<sup>あ</sup>いま<sup>あ</sup>す。

ます。そして災害の時はみんなが被災者になるから、一人ひとりが自分の事として考えて、  
今あたたかい所で美味しい物を食べられることを当たり前ではないって思いながら生活  
をしていきたいです。

## ■ゆめ風30周年企画 第1回

2025年(来年)は、阪神淡路大震災から30年、ゆめ風基金発足30年を迎えます。過去の災害  
を忘れず伝え続けるため、発災当時、救援活動の中心として活動されていた方々に当時  
の様子を振り返っていただきます。

### 「阪神・淡路大震災」から29年目を迎えて

社会福祉法人えんぴつの家 理事長 鋤柄 和成



はじめに、2024年元日に発生した「令和6年能登半島地震」でお亡くなりになった  
方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された全ての方々に心よりお見舞い  
申し上げます。私は奈良の実家に帰省中で、テレビの緊急地震速報とスマートフォンの  
緊急速報メールの後、ミシミシと家が軋むほどの大きな横揺れが数十秒続いた時、  
29年前の「阪神・淡路大震災」の恐怖が鮮明に蘇りました。

1995年1月17日午前5時46分、神戸市長田区の自宅でその時を迎えました。私  
は1月15日から東京の「ピープルファースト」の全国大会に参加して、17日の午前7  
時に到着の夜行バスで神戸に戻る予定でしたが、数日前からの大雪で道路事情が悪くな  
ったので、急遽予定を変更して新幹線で16日の夜に神戸に戻っていたのです。それから  
わずか数時間後の事でした。

自宅は長田区の北部の山側にあったのが幸いし、建物の被害はそれほど大きくありませ  
んでしたが、水道もガスも止まり、電話も通じにくい状態で、午前7時過ぎに電気だけは  
復旧したので、テレビを点けてみたところ、大きく倒壊した阪神高速道路の映像が  
写し出されました。ライフラインは絶たれ、電車やバスなどの公共交通機関も動かず容易

いどうもできない中、5歳と1歳半の子どもを抱え、数日間は家族を守る事だけで精いっぱい、私は、えんぴつの家の一員としてなすべき事が何もできませんでした。

そんな中、えんぴつの家は、被災障害者の生活を支える活動の拠点として、震災ボランティアが寝泊まりし、救援物資の基地となりました。これが後に「被災地障害者センター」となるわけですが、全国の仲間を支えられ、少しずつ日常を取り戻していきました。

何の備えも心構えもなかった29年前と比べると、大きな自然災害が起こる度に、市民レベルのノウハウは着実に蓄積されています。この原稿のご依頼をいただいた時には、このような事態になるとは思いもしませんでした。ゆめ風基金と共に、一日も早い復旧・復興に向けて能登半島の被災地に寄り添って行きたいと思っております。

## ■ 応援団からこんにちは vol. 8

災害時にはより小さな地域単位、「町」や「村」での情報が必要になってきます。そこで、いざ、災害が発生したときに「地域単位」で情報収集してくださる団体を募集することにしました。それが「ゆめ風応援団」です。

自立生活センター富士（富士市） 代表 望月 亜矢子

静岡県富士市で「どんなに重い障害があっても、自分らしく地域の中で主体的に楽しく生活する」をモットーに障害者が主体となって活動をしています。

主な活動内容として、自立生活に必要な心構えやノウハウを学ぶ「自立生活プログラム」、同じ立場や体験をした仲間だからこそ分かり合える「ピアカウンセリング」、障害の有無関係なく、誰もが暮らしやすい社会になるよう「啓発活動・権利擁護活動」を行っています。

私自身も一緒に活動する仲間も、地域で介助者のサポートを24時間受けながら生活していますが、地域へどんどん出かけ、感じたことや疑問に思ったことはそのままにせず発信していくようにしています。地域でのイベントやお祭り・文化祭、防災訓練などに積極的に

さんか ちいき かた つな もほんとう たいせつ ひびかん  
に参加し、地域の方たちと繋がりを持つことは本当に大切だと日々感じています。

ふじし ぼうさいき きかんりか した まいとしおこな ぼうさい  
富士市の防災危機管理課さんとも親しくさせていただき、毎年行っている防災イベント  
「ふじ Bousai」にもブース参加し、ダンボールの間仕切り展示&体験のコーナーを担当し  
ています。あか じゆにゆう きが かつよう せたけ たか まじき ひなんせい  
赤ちゃんの授乳や着替え・トイレで活用できる背丈の高い間仕切りと、避難生  
活でのプライバシーを守る間仕切りを防災倉庫に行行政が備えてくれていますが、自分で  
きる「自助」の部分は日頃から取り組んでいこうと伝えていきます。

わたし かつどう お けいぞく たいせつ なかま いっしょ  
私たちの活動は終わりがなく継続していくことがとても大切で、これからも仲間と一緒に  
たの かつどう  
楽しく活動していきます。

しずおかしょうがいしゃじりつせいかつ しずおかし だいひょう こくえ ひろし  
静岡障害者自立生活センター（静岡市） 代表 小久江 寛



たいふう ごう え きょうくん  
「台風15号から得た教訓」

しずおかけん ねん がつ たいふう ごう しんすい どしゃくずれ だいきぼ すいがい はっせい  
静岡県では、2022年9月、台風15号により浸水や土砂崩れなどの大規模な水害が発生しま  
した。

とう しずおかしするがく ちょうじかん ていでん だんすい  
当センターのある静岡市駿河区においても、長時間の停電や断水により、ヘルパーを  
つか ぐ なかま いちじ せいめい きき ひん  
使ってひとり暮らしをする仲間たちが一時は生命の危機に瀕しました。

かれ じんこうこきゅうき しょう ていきてき たん きゅういん いるようてきけ あ ひつよう どっきよ  
彼らは人工呼吸器を使用しており、定期的な痰の吸引などの医療的ケアを必要とする独居  
の重度障害者です。

やく じかん およ ていでん めい たん きゅういん でき めい じんこうこきゅうき  
約12時間に及ぶ停電で、1名は痰の吸引が出来なくなり、もう 1名は人工呼吸器が  
と じたく そな はつでんき なん の き  
止まりそうになったところをあらかじめ自宅に備えていた発電機で何とか乗り切りました。

ざんしょきび なか つか たいおんちようせつ こんなん じゅうどしょうがいしゃ  
残暑厳しい中、エアコンが使えなくなったことも、体温調節が困難な重度障害者にとっ  
ては過酷な経験だったようです。

こんかい きょうくん ちいき せいかつ しょうがいしゃ じぶん いえ はつでんき よび  
今回のことを教訓として、地域で生活する障害者たちは、自分の家に発電機や予備バ  
ッテリーを用意しておく（自助）ことの大切さを知り、当センターとしては、貸出用の予備  
あしぶ しききゅういんき じょうび きょうじよ きょうくん え  
バッテリーや足踏み式吸引機を常備しておく（共助）教訓を得ました。

そして、行政に対しては、地域で暮らす医療的ケアが必要な重度障害者に対しての災害

時のサポート体制の構築（公助）を、障害当事者団体の立場から粘り強く訴えていきたい

と考えております。

皆さん、共に声をあげましょう！

## ■カンパを頂いた団体 2023/10-2023/12

お店に募金箱を置いてくださったり、街頭募金やバザー、イベントで集めてくださったりしています。  
本当にありがとうございます。もしも、記載漏れがありましたらご連絡ください。

- 10/6 障害者活動センターあゆみ（安芸郡）
- 10/12 ほっとはあと（総社市）
- 10/20 出発のなかまの会（大阪市）
- 11/15 生野みんなの家（大阪市）
- 12/4 フジテクノ（川越市）
- 12/4 豊能障害者労働センター（箕面市）
- 12/11 出発のなかまの会（大阪市）
- 12/11 カトリック枚方教会（枚方市）
- 12/13 工作室はらっぱ（亀田郡）
- 12/13 ABC研究所（北九州市）
- 12/16 日本聖公会大阪教区婦人会（大阪市）
- 12/18 ヒューマンネットワーク熊本（熊本市）
- 12/20 ミニヨンショップ（川西市）
- 12/22 清心中学校・清心女子高等学校（倉敷市）
- 12/25 ベル・カラナ（越谷市）
- 12/26 ゆうとおん（八尾市）
- 12/28 野村福祉園（西予市）
- 12/28 ヌヴェール愛徳修道会（伏見区）
- 12/28 聖愛園（大阪市）
- 12/30 楽風（さいたま市）

## ■事務局の動き 2023/4~6

2023年10月から12月の動きを一部ご紹介します。

★毎週月曜日：事務局会議 ★毎週金曜日：新HP打合せ

10/3 むくのき学園（東淀川区）講演

- 10/4 BCP (事業継続計画) 研究会
- 10/6 ゆめ風であいましょう in 東京
- 10/10 茨木市事業所連絡会講演
- 10/11 ポジティブ生活文化交流祭 (ポジ祭) 運営委員会
- 10/14 摂津市広域避難体験顔合わせ
- 10/16 豊中市障害者居宅介護・移動支援事業者連絡会講演
- 10/17 箕面市生活と労働推進協議会ZOOM補助
- 10/18 ゆめごよみ 105号編集委員会
- 10/19 おおさか災害ネットワーク (OSN) 世話役会
- 10/20 ポジ祭出展者説明会
- 10/21・22 摂津市広域避難訓練
- 10/24 尼崎市自立支援協議会講演
- 10/27 柴島中学校中学生プロジェクト
- 10/27 ハートフル大東講演
- 10/30 神戸学院大学講演
- 11/4 BCP研究会
- 11/10 関西STS連絡会セミナー参加
- 11/15 名古屋市講演
- 11/17 宮崎県相談支援専門員連絡協議会講演 (ZOOM)
- 11/22 BCP研究会セミナー
- 11/23 ポジ祭
- 12/1 亀岡福祉会家族の会講演
- 12/5 OSN世話役会
- 12/6 日本自立生活センター講演
- 12/9・10 箕面市人権フォーラム ZOOM補助
- 12/15 中堅介護職員向け実践セミナー講演
- 12/18 理事会
- 12/20 BCP研修会 (ZOOM)

■会計報告 (PDF版をご覧ください)

■そよ風、つむじ風、六甲おろし/各地からの風だより/2023.10-2023.12

▼戦争も原発も増税もいらない! (大阪市)

▼災害は止められないけど、原発は止められます (伊勢市)

▼「助け合う」気持ち。大切にしたいですね (金沢市)

▼80歳を過ぎても元気で過せることに感謝して（我孫市）

▼自然災害で、まだ復旧できていない家屋などの修繕に使ってもらえれば（足柄上郡）

▼2024年少しでも平和な世の中になりますように・・・（大阪市）

▼ウクライナもガザも弱者がおだやかに過ごせる日が早く来る事を祈っています（宝塚市）

▼日々・戦場の・苦しみのニュース、眼、耳を塞げばいい・ということでもありません  
（杉並区）

▼わずかでも大事なお金。つかい道まちがわない政治をつくらないと（さいたま市）

▼だれでもがいつ、お世話になるかわかりません。「お互い様」やさしい言葉ですね。宜しく  
お願い致します（足立区）

▼もう何を言ってもダメだ！でもこれで沈黙してしまったら、ヤツラの思うつぼ（武蔵野市）

▼「防災」についてもう一度地域でとりくんでいこうと思っています。すこしでもお役に  
たちますように（横浜市）

▼小出さんのお話を小室さんの歌と共に伺うことができ心にしみました。感謝（世田谷区）

▼防災のBCPに関して、皆で楽しむ。意識と経験の共有が大事、とのこと。その通りと  
思いました（横浜市）

▼Xmas献金です♡世界はますます厳しい状況ですが、希望を失わずにいたいと思います  
（茨木市）

▼心おだやかに暮せる日が続きますよう!!（東京都北区）

▼次から次へと起こる出来事に流されてしまいそうな自分に大切なことを教えていただい  
てます（和賀郡）

▼少しずつです。「継続は力なり」これからもよろしく申し上げます（奈良市）

▼災害時のゆめ風の迅速な対応には頭が下がります。これからもお困りの場所への一刻も  
早い支援に期待しています（鹿足郡）

▼子ども達が良き年を迎えられますように（河北郡）

▼また1年、無事に過ごせたことに感謝して、寄付を送ります。お役立てください。(横須賀市)

▼つらい中におられる方が少しでも暖かく過ごせます様に一お祈りしています。(大阪市)

▼小出裕章さんの話(3ページ)とてもよかったです。多くの人に知って欲しい内容でした(八王子市)

▼愚かな戦争やめてください。皆の幸を祈ります(荒川区)

▼地球温暖化というのは激しく厳しい気候になるということなんですね。弱者は耐えられません。(入間市)

▼特殊詐欺の横行、政治家の劣化と暴走。悪い日本になりました。ゆめ風は日本に残っている良心の一つです(さいたま市)

▼ガザにはろう学校があると聞き、障害者が戦争状態でどのような目にあうのか、胸がしめつけられますね(豊島区)

▼災害のない1年である様に祈っていましたが残念でした。元気で生きられた事を祈念して(太田市)

▼ゆめ風だよりNo.105よくわかりました。応援しています(福岡市)

## ■編集後記

正月から能登半島地震が起きてしまいました。奥能登の状況は阪神淡路大震災を上回る悲惨な状況です。1.5次避難所というのも初めて聞くほど、現地での生活が難しい人も多くいますし、とどまって生活されている方も困難な生活を強いられています。被災された方々に心からお見舞いを申し上げますと同時に、息の長い支援を続けていきたいとおもっています。

ゆめ風基金のSNSやウェブサイト